# 科研費

# 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号: 12601 研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2017~2020

課題番号: 17K12978

研究課題名(和文)物的な都市密度に基づく客観的な既成市街地の画定方法の構築及び市街地縮退の評価

研究課題名(英文) Development of methods for delineating urban areas based on urban density and its application to evaluating urban shrinkage

#### 研究代表者

薄井 宏行(Hiroyuki, Usui)

東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・助教

研究者番号:70748219

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文):建物の分布に基づいて既成市街地を画定する方法を構築し,既存の既成市街地である人口集中地区(densely inhabited districts(DID))との比較分析を精緻に行った.我が国の市町村は,既成市街地の縮退を促すために,居住誘導区域等の設定に取り組んでいる.本研究が提案する既成市街地の画定方法は,既成市街地を構成する最小な空間単位である建物を基礎とし,既成市街地の形態と都市運営費用の関係を明示的に分析することに成功した.また,空き地が空間的・時間的にランダムに発生・蓄積しているかどうかを検証する方法を構築することで,既成市街地内において都市のスポンジ化の進行を評価することも試みた.

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究が提案する既成市街地の画定方法は,既成市街地を構成する最小な空間単位である建物を基礎とし,既成 市街地の形態と都市運営費用の関係を明示的に分析できた点において,学術的な意義を有する.また,社会的な 意義として,建物の分布に基づいて既成市街地を画定する方法を構築し,既存の既成市街地である人口集中地区 (DID)との比較分析を精緻に行うことで,居住誘導区域等の設定や既成市街地の縮退の評価への貢献が挙げら れる.

研究成果の概要(英文): A bottom-up method for delineating urban areas is developed which is based on building locations. This method consist of the following three steps. First, buildings whose nearest neighbor distance (NND) is shorter than a criterion are specified as built clusters. Second, built cluster's size greater than a criterion are delineated as urban areas. Third, the criterion regarding the NND of buildings is optimized which can minimize the average total cost of road networks. Urban areas delineated by this method are compared with densely inhabited districts (DID). Also, using this method, a new method is developed for evaluating whether or not vacant plots are randomly generated and accumulated spatiotemporally. It is found that the random generation of vacant plots does not tend to continue in the same urban areas. Rather, in most urban areas, this process is a temporary phenomenon. Nevertheless, once vacant plots are randomly accumulated in an urban area, this process tends to continue.

研究分野: 都市計画,社会システム工学,地理学

キーワード: 既成市街地 密度 人口集中地区 居住誘導区域 都市のスポンジ化 平均費用最小化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1.研究開始当初の背景

## 研究の学術的背景

本研究の目的は,物的な都市密度(街区,道路,建物の各密度)に基づいて現状と将来の既成 市街地を画定する方法を構築し,両者の比較から市街地縮退を評価することである.

従来の既成市街地の画定方法は,1)人口密度や建物棟数密度の空間単位への依存性,2)水準値の設定の妥当性の点において,それぞれ課題を有する.日本の場合,既成市街地は市町村内で人口密度の高い地域として設定される「人口集中地区」として画定される一方で,国勢調査基本単位区等の空間単位と人口密度の高さを表す水準値の妥当性は十分検討されていない.低密度な既成市街地が問題視され,客観的な市街地画定方法の構築が課題として指摘され続けている.

本研究に関連する主な既往研究として,a)人口密度に基づき既成市街地を画定する方法と問題点を指摘した研究,b)街区や建物の密度や連坦性に基づき既成市街地の画定を試みた研究がある.特に,高山(1949)は,市街地画定における人口密度と地域単位設定の重要性を論じた嚆矢である.

a)に関する既往研究として,腰塚(2005)は,人口密度に基づき既成市街地を画定する方法の場合の問題点として,人口密度を算出する空間単位の設定や既成市街地の水準値の設定に大きく依存する点を挙げている.解決策として,建物や公共施設の配置や分布に基づいて市街地を画定することを提案している.また,Forsyth(2003)とChurchman(1999)が指摘するように,人口密度は空間単位の設定や居住人口の定義に依存する.これらは既成市街地の画定結果にも影響を及ぼす.

b)に関する既往研究として,Longley et al. (2000)は,建物の代表点を表す位置情報として,更新頻度が高い郵便受けの位置情報に着目し,1km四方の空間単位における郵便受けの密度に基づいて既成市街地を画定する方法を提案している.Tannier et al. (2011)は,建物の平面形状を表す多角形の拡張距離の増加に対する,建物群で構成されるクラスター総数の減少具合から,既成市街地をクラスターとして画定するための適切な拡張距離を設定している.一方で,Jiang et al. (2012)は,空間単位への依存性を解消するため,国土,市区町村の区域,市街地を構成する基礎的な空間単位として街区に着目し,スケールの違いに関らず,街区面積の確率密度関数は対数正規分布として記述されることを実証している.市街地は小規模の街区で構成される傾向に着目し,街区面積の平均を既成市街地の水準値として定義することで,人口密度の高さを表す水準値を設定せずに,イギリス,フランス,ドイツ(各国の街区面積の平均値はそれぞれ40ha,90ha,20ha)を対象に既成市街地を画定することを試みている.

このように,先行研究において,現状の既成市街地を客観的に画定する方法は提案されている一方,将来の既成市街地を客観的に画定する方法は皆無である. Jiang et al. (2012)は,現状の街区面積の確率密度関数を実データから推定している.ところが,将来の街区面積のように,実データが存在しない場合,確率密度関数の推定を工夫する必要がある.本研究では,街区面積の確率密度関数と物的な都市密度の関係を理論的に明らかにすることで,前者を後者から推定する工夫を試みる.両者の関係を明らかにすることは,1)現状と将来の既成市街地を客観的に画定すること,2)政策的に設定する物的な都市密度と居住誘導区域の範囲の関係を明示できること,3)現状と将来の既成市街地の変化に基づき市街地縮退を客観的に評価する方法を与えることに寄与する.

### 2.研究の目的

本研究の目的は,物的な都市密度(街区,道路,建物の各密度)に基づいて現状と将来の既成 市街地を画定する方法を構築し,両者の比較から市街地縮退を評価することである.

人口減少時代において,市町村は市街地を計画的に縮退させるために,都市再生特別措置法に基づく居住誘導区域を設定しようとしている.ところが,居住誘導区域の画定方法や市街地縮退の評価方法は明示されていない.学術的にも,既成市街地を画定する研究は国内外で蓄積されている一方,既成市街地の画定方法の妥当性や既成市街地と物的な都市密度の関係は未解明である.

本研究では,街区面積の確率密度関数を物的な都市密度の関係を明らかにし,街区面積の平均 を現状と将来の市街地の水準とすることで,市街地縮退を物的な都市密度に基づいて評価する.

# 3.研究の方法

- 1)街区面積の理論的確率密度関数を導出する.物的な都市密度(街区密度,道路延長密度等)の変化に対する確率密度の関数形の感度分析を行い,両者の理論的関係を明らかにする.
- 2)主に首都圏等の街区データを整備する.道路網データ使用し,街区データを道路網データの補集合として作成する.
- 3)街区面積の理論的確率密度分布と相対度数分布(実測値)の適合性を統計的に検証する.
- 4)街区面積の平均値を水準とする既成市街地と人口集中地区の相違を明らかにする.
- 5)街区面積の平均値を水準として居住誘導区域を画定し,現状と将来における既成市街地の 変化に基づいて市街地縮退を評価する.

## 4. 研究成果

建物の分布に基づいて既成市街地を画定する方法を構築し,既存の既成市街地である人口集中地区(densely inhabited districts(DID))との比較分析を精緻に行った.両者はそれぞれbottom-up approach と top-down approach に分類される.

我が国の市町村は、既成市街地の縮退を促すために、居住誘導区域等の設定に取り組んでいる、本研究が提案する既成市街地の画定方法は、 既成市街地を構成する最小な空間単位である建物を基礎とし、 ある建物の最近隣に位置する建物までの距離の総和に比例する都市運営の可変費用を定式化し、建物棟数に依存しない集落間を結ぶ幹線道路網に比例する費用を固定費用として定式化し、 前述の最近隣距離の閾値を平均費用最小化問題の解として定義することで、 既成市街地の形態と都市運営費用の関係を明示的に分析することに成功した.

また,集落を構成する建物棟数は power law に従うことを確認し,既往研究が提唱する 'head/tail division rule'に基づき,集落を構成する建物棟数に基づいて集落の空間階層を定義した.その結果,既存の DID は大小様々の集落と共通部分を有する一方で,同程度の建物棟数であるものの,DID に含まれない場合もあることを確認した.これらの結果は,今後より詳細に居住誘導区域を設定する際の基礎になると考えられる.さらに,上述の集落について,空き地が空間的・時間的にランダムに発生・蓄積しているかどうかを検証する方法を構築することで,都市のスポンジ化を評価することも試みた.

このように,都市の縮退という現象に対して, 既成市街地を画定する方法, 既成市街地内においてスポンジ化の進行を評価する方法を構築することができた.これらの成果は,国際誌(Computers, Environment and Urban Systems, International Journal of Geographical Information Science, Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science)に

掲載された.

# 5 . 主な発表論文等

「雑誌論文 〕 計36件(うち査詩付論文 23件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 9件)

〔雑誌論文〕 計36件(うち査読付論文 23件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 9件)	
1 . 著者名 Usui Hiroyuki・Asami Yasushi	4 . 巻 43(3)
2.論文標題 Size distribution of building lots and density of buildings and road networks: theoretical derivation based on Gibrat's law and empirical study of downtown districts in Tokyo	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 International Regional Science Review	6.最初と最後の頁 229-253
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0160017619826270	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 Usui Hiroyuki・Teraki Akihiro・Okunuki Kei-ichi・Satoh Toshiaki	4.巻 online first
2.論文標題 A Comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings	5.発行年 2020年
3.雑誌名 International Journal of Geographical Information Science	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13658816.2020.1748191	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 金洪稷・樋野公宏・薄井宏行・花里真道・高木大資・近藤尚己・近藤克則	4.巻 54(3)
2.論文標題 高齢者の趣味活動・スポーツ参加と近隣施設密度の関係 -名古屋市におけるJAGESのパネルデータを用いて -	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名都市計画論文集	6.最初と最後の頁 1490-1495
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.11361/journalcpij.54.1490	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 山本和也・薄井宏行・浅見泰司	4.巻 54(3)
2 . 論文標題 路線バスにおける総所要時間最小化によるフリー乗降区間の配置 -横浜市青葉区東急バスみたけ台線への 応用-	5.発行年 2019年
3.雑誌名 都市計画論文集	6.最初と最後の頁 688-695
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpij.54.688	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

1.著者名	. "
· · 1   1   1   1   1   1   1   1   1	4 . 巻
Usui Hiroyuki	46(8)
2 . 論文標題	5 . 発行年
Statistical distribution of building lot depth: theoretical and empirical investigation of	2019年
downtown districts in Tokyo	
	6.最初と最後の頁
3.雑誌名	
Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	1499-1516
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1177/2399808319840366	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Usui Hiroyuki	77
USUT HITOYUKT	11
2	F 発仁左
2 . 論文標題	5.発行年
A bottom-up approach for delineating urban areas minimizing the connection cost of built	2019年
clusters: Comparison with top-down-based densely inhabited districts	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Computers, Environment and Urban Systems	101363
Somparers, Environment and orban systems	101303
  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.compenvurbsys.2019.101363	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
1 . 著者名	4 . 巻
Usui Hiroyuki	
USUT HTTOYUKT	-
A 1 170	
2.論文標題	5 . 発行年
District the Control of the Control	2019年
Building height distribution under zoning regulation: theoretical derivation based on Gibrat's	2010
	2010 1
Law and allometric scaling analysis	•
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Law and allometric scaling analysis  3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of	•
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Law and allometric scaling analysis  3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts	6 . 最初と最後の頁 211-212
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無
Law and allometric scaling analysis  3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts	6 . 最初と最後の頁 211-212
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著
Law and allometric scaling analysis 3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著
Law and allometric scaling analysis 3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 84(762)
Law and allometric scaling analysis 3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏 2. 論文標題	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年
Law and allometric scaling analysis 3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏 2. 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762)
Law and allometric scaling analysis  3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2. 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年
Law and allometric scaling analysis  3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2. 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年
Law and allometric scaling analysis 3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3 . 雑誌名	6 . 最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 84(762) 5 . 発行年 2019年
Law and allometric scaling analysis  3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
Law and allometric scaling analysis 3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
Law and allometric scaling analysis  3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 1779-1787
Law and allometric scaling analysis  3. 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2. 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 1779-1787
Law and allometric scaling analysis  3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 1779-1787
Law and allometric scaling analysis  3.雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 薄井宏行・樋野公宏  2.論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に  3.雑誌名 日本建築学会計画系論文集  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.84.1779	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 1779-1787
Law and allometric scaling analysis  3 . 雑誌名 The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG), Book of Abstracts  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・樋野公宏  2 . 論文標題 高齢者の歩行特性を考慮した休憩施設の密度と最長継続歩行距離 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に 3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6.最初と最後の頁 211-212 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 84(762) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 1779-1787

1.著者名	4 . 巻
薄井宏行	54(1)
2 . 論文標題	5 . 発行年
消防活動困難区域の定義再考	2019年
3 . 雑誌名	6 . 最初と最後の頁
都市計画論文集	64-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.11361/journalcpij.54.64	有
	13
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
	-
海升公1J	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
最近隣距離が短すぎず最大近隣距離が長すぎない点密度	2020年
	•
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集	90-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
おり なし	無無
<i>'</i> & <i>O</i>	<del>///</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
薄井宏行	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
2 : 闘ス係題 都市は本当にスポンジ化しているのか:千葉県を対象に	2019年
即川は半当に人がノグ化しているのが、十条宗を刈水に	2019-
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会 研究アブストラクト集	42
0010 S/110 2010 工目八円·13/13/11/11/12/04(八公 WI/U/ フハーファース	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	本芸の左仰
· ·	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
薄井宏行	-
つ \$△☆+毎日百	F 翠红左
2. 論文標題	5 . 発行年
都市計画の基礎理論としての建物棟数密度と道路延長密度	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
- 3. 新版日 - 2019年度日本建築学会大会(北陸) 建築計画部門研究懇談会「建築・都市・農村計画研究者の方法論的転	<ul><li>・ 取 ⋈ ⊂ 取 ⋉ 以 只</li><li>-</li></ul>
2019年度日本建衆子云入云(礼座) 建衆計画部 155元記談云 建衆・節印・展刊計画研究者の万法論的報 換 若手研究者・実務家はいかに社会的課題と向き合っているか 」資料集	-
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
ナープンフルトフ	<b>同</b> 附 +
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1 . 著者名	4.巻
薄井宏行	-
2.論文標題	
最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較	2019年
取入足所に限力中の専用とおりた所に関う中とのに収	2013—
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アプストラクト集	190-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
. ***	
1 . 著者名	4.巻
薄井宏行	-
2.論文標題	
敷地の規模・形状の多様性と法則性 - 道路延長密度と建物棟数密度を基礎とする都市空間の性能規定化へ	2019年
の示唆 -	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手奨励] 特別研究委員会最終報告書	25-28
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
19年1日 スプレン・(プラグルオンジェット部が一)	重硫の行無   無
4 U	<del>///</del>
 オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Usui, H. and Asami, Y.	onlinefirst
2	F 整仁在
2. 論文標題 Size distribution of building lote and density of buildings and read networks: theoretical	5 . 発行年
Size distribution of building lots and density of buildings and road networks: theoretical derivation based on Gibrat's law and empirical study of downtown districts in Tokyo	2019年
3.雑誌名	 6.最初と最後の頁
International Regional Science Review	onlinefirst
THE CHILL HOSTONIA COTONIO NOTON	onthictitist
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1177/0160017619826270	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Usui, H.	20(4)
2 - 於文博爾	C ※行在
2. 論文標題  Total motion of geometric route dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance of geometric route dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance of geometric route dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance of geometric route dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct to normal dictance from its topological dictance and instinct topological dictance from its topological dictance and its topological dictance from its topological dictance and its topological dict	5 . 発行年
Estimation of geometric route distance from its topological distance: application to narrow road networks in Tokyo	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Geographical Systems	387-412
Souther of Sosyraphitour Systems	001 TIL
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1007/s10109-018-0276-3)	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	四怀六白
オーテファクト人 じははい メはオーナノアクラス 小国野	-

1.著者名	4.巻
Usui, H.	20(3)
2 . 論文標題	5 . 発行年
Statistical distribution of building lot frontage: application for Tokyo downtown districts	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Geographical Systems	295-316
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10109-018-0268-3	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4.巻
薄井宏行・寺木彰浩	53(3)
2 . 論文標題 建物棟数密度の減少による延焼確率の減少効果 正方形敷地の仮定に基づく延焼確率分布の導出及び密集 市街地における延焼リスク評価への応用	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
都市計画論文集	1507-1514
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpij.53.1507	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名	4.巻
薄井宏行・樋野公宏	83(748)
2 . 論文標題	5 . 発行年
継続歩行距離と休憩施設の密度基準 東京駅および大手町駅周辺地区を対象に	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本建築学会計画系論文集	1049-1056
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.3130/aija.83.1049	有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著
1.著者名	4.巻
薄井宏行	83(745)
2.論文標題	5 . 発行年
街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本建築学会計画系論文集	475-482
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/ai ja.83.475	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

海井宏行         ***		
2 ・	1.著者名	4 . 巻
2 ・		none
欧地の規模・形状の多様性と法則性・道路延長密度と建物棒数密度を基礎とする都市空間の性能規定化への示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・	74712613	
欧地の規模・形状の多様性と法則性・道路延長密度と建物棒数密度を基礎とする都市空間の性能規定化への示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・の示唆・	AA NITOT	_ 70 /
の示唆・ 3 結結名 日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手奨励] 特別研究委員会翻終報告書	2.論文標題	5.発行年
の示唆・ 3 結結名 日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手奨励] 特別研究委員会翻終報告書	敷地の規模・形状の多様性と法則性 - 道路延長密度と建物棟数密度を基礎とする都市空間の性能規定化へ	2019年
3 . 触試名 日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手突励] 特別研究委員会最終報告書 25-28 据載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)		
日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手奨励] 特別研究委員会最終報告書 25-28 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)		6 B T L B # 6 T
据載論文のDDI(デジタルオブジェクト識別子)		6.最例と最後の貝
据載論文のDDI(デジタルオブジェクト識別子)	日本建築学会 多世代共創社会に向けた建築・都市システム [若手奨励] 特別研究委員会最終報告書	25-28
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		+++ - + m
1 . 著者名   7   7   7   7   7   7   7   7   7	掲載論又のDOT(アンダルオノシェクト識別子)	(金読の有無)
1 - 著書名   3 - 報話名   4 - 巻   2018年   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 4 - 2018年   3 - 4 - 2018年   3 - 3 - 2018年   3 - 2018年	なし	無
1 - 著書名   3 - 報話名   4 - 巻   2018年   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 4 - 2018年   3 - 4 - 2018年   3 - 3 - 2018年   3 - 2018年		
1 - 著書名   3 - 報話名   4 - 巻   2018年   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 報話名   3 - 4 - 2018年   3 - 4 - 2018年   3 - 3 - 2018年   3 - 2018年	ナーゴンフクセフ	国際共革
1 ・ 著者名 第井宏行・帰野公宏 27 2 ・ 論文標題	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	国际共有
薄井宏行・橋野公宏     27       2 . 論文標題 休憩施設の密度と最大継続歩行距離・東京駅および大手町駅周辺地区を対象に-     5 . 発行年 2018年       3 . 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集     6 . 最初と最後の頁 c-2-4       相数論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       1 . 著者名 薄井宏行     4 . 巻 none       2 . 論文標題 超市形態における多様性のなかの法則性     5 . 発行年 2018年 45-46       3 . 雑誌名 カッション資料集 なし     6 . 最初と最後の頁 45-46       オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     査読の有無 無       1 . 著者名 海井宏行・寺木彰浩・浅見泰司     4 . 巻 none       2 . 論文標題 延規確率の確率密度開致と建物模数密度     5 . 発行年 2018年 2018年       3 . 雑誌名 7 . 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集     6 . 最初と最後の頁 110-111	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
薄井宏行・橋野公宏     27       2 . 論文標題 休憩施設の密度と最大継続歩行距離・東京駅および大手町駅周辺地区を対象に-     5 . 発行年 2018年       3 . 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集     6 . 最初と最後の頁 c-2-4       相数論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       1 . 著者名 薄井宏行     4 . 巻 none       2 . 論文標題 超市形態における多様性のなかの法則性     5 . 発行年 2018年 45-46       3 . 雑誌名 カッション資料集 なし     6 . 最初と最後の頁 45-46       オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     査読の有無 無       1 . 著者名 海井宏行・寺木彰浩・浅見泰司     4 . 巻 none       2 . 論文標題 延規確率の確率密度開致と建物模数密度     5 . 発行年 2018年 2018年       3 . 雑誌名 7 . 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集     6 . 最初と最後の頁 110-111		
薄井宏行・橋野公宏     27       2 . 論文標題 休憩施設の密度と最大継続歩行距離・東京駅および大手町駅周辺地区を対象に-     5 . 発行年 2018年       3 . 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集     6 . 最初と最後の頁 c-2-4       相数論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       1 . 著者名 薄井宏行     4 . 巻 none       2 . 論文標題 超市形態における多様性のなかの法則性     5 . 発行年 2018年 45-46       3 . 雑誌名 カッション資料集 なし     6 . 最初と最後の頁 45-46       オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     査読の有無 無       1 . 著者名 海井宏行・寺木彰浩・浅見泰司     4 . 巻 none       2 . 論文標題 延規確率の確率密度開致と建物模数密度     5 . 発行年 2018年 2018年       3 . 雑誌名 7 . 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集     6 . 最初と最後の頁 110-111	1 茎老夕	/
2 ・ 論文標題		_
休憩施設の密度と最大継続歩行距離 -東京駅および大手町駅周辺地区を対象に- 2018年 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設システム学会講演論文集 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設立のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 金	海开太行・憴野公太	21
休憩施設の密度と最大継続歩行距離 -東京駅および大手町駅周辺地区を対象に- 2018年 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設システム学会講演論文集 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設立のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 金		
休憩施設の密度と最大継続歩行距離 -東京駅および大手町駅周辺地区を対象に- 2018年 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設システム学会講演論文集 6 . 最初と最後の頁 で-2-4 信頼設立のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 金	2.論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集		
世理情報システム学会議演論文集	<b>小芯肥収ソ11反(取入絶統少1) 足離 「米ぶ∛のよい人十門 ※同辺地区で対象に「</b>	2010 <del>' </del>
世理情報システム学会議演論文集		
掲載論文のDDI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 無 オーブンアクセス コープンアクセス コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 薄井宏行	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDDI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 無 オーブンアクセス コープンアクセス コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 薄井宏行	<b>地理情報システ</b> ん学会議演論文集	C-2-4
## オープンアクセス	「ひょうなく ハノ ムナム 野穴 順へ木	027
## オープンアクセス		
## オープンアクセス		
## オープンアクセス	掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 3 . 雑誌名 力ッション資料集  掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行 をなり オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司  2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度  3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集  「10-111		<del>==</del>
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		<del>////</del>
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
1 . 著者名       薄井宏行       4 . 巻 none         2 . 論文標題 都市形態における多様性のなかの法則性       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111	オープンアクセス	国際共者
1 . 著者名       薄井宏行       4 . 巻 none         2 . 論文標題 都市形態における多様性のなかの法則性       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが闲難	_
薄井宏行       none         2 . 論文標題       5 . 発行年         都市形態における多様性のなかの法則性       5 . 発行年         2018年8日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディスカッション資料集       6 . 最初と最後の頁本5・46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無         オープンアクセス       国際共著カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難カースが困難カースが表表会で、ラ木彰浩・浅見泰司       4 . 巻のの他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の		
薄井宏行       none         2 . 論文標題       5 . 発行年         都市形態における多様性のなかの法則性       5 . 発行年         2018年8日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディスカッション資料集       6 . 最初と最後の頁本5・46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無         オープンアクセス       国際共著カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難カースが困難カースが表表会で、ラ木彰浩・浅見泰司       4 . 巻のの他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の	. ***	
2 . 論文標題 都市形態における多様性のなかの法則性       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111	—	4. を
都市形態における多様性のなかの法則性       2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス	薄井宏行	none
都市形態における多様性のなかの法則性       2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス		
都市形態における多様性のなかの法則性       2018年         3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集       6 . 最初と最後の頁 45-46         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス	2 ≜全 → ★毎日	c
3 . 雑誌名 2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス カッション資料集  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司  2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度  3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集  6 . 最初と最後の頁 110-111	·····	
2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス 45-46 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	都市形態における多様性のなかの法則性	2018年
2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス 45-46 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
2018年度日本建築学会大会(東北) 多世代共創社会の構成「軸」とその分析「スケール」パネルディス 45-46 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	3 雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         ホープンアクセス       国際共著         1 . 著者名       本ープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         2 . 論文標題       5 . 発行年         延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年         2018年       6 . 最初と最後の頁         110-111       110-111		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		45-46
#	カッション資料集	
#		
#	掲載絵文のDOI (デジタルオブジェクト幾別子)	本語の右無
オープンアクセス国際共著1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司4 . 巻 none2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度5 . 発行年 2018年3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集6 . 最初と最後の頁 110-111		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111	なし	<b>#</b>
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題 延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年 2018年         3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁 110-111	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名       薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       4 . 巻 none         2 . 論文標題         延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       5 . 発行年         2018年         3 . 雑誌名         2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       6 . 最初と最後の頁         110-111		
薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       none         2 . 論文標題 <ul> <li>延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度</li> </ul> 5 . 発行年 <ul> <li>2018年</li> </ul> 3 . 雑誌名 <ul> <li>2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集</li> <li>110-111</li> </ul> 6 . 最初と最後の頁 <ul> <li>110-111</li> </ul>	オーフファッピへ Claderi、 スはカーフファッピスが凶難	
薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       none         2 . 論文標題 <ul> <li>延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度</li> </ul> 5 . 発行年 <ul> <li>2018年</li> </ul> 3 . 雑誌名 <ul> <li>2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集</li> <li>110-111</li> </ul> 6 . 最初と最後の頁 <ul> <li>110-111</li> </ul>		
薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司       none         2 . 論文標題 <ul> <li>延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度</li> </ul> 5 . 発行年 <ul> <li>2018年</li> </ul> 3 . 雑誌名 <ul> <li>2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集</li> <li>110-111</li> </ul> 6 . 最初と最後の頁 <ul> <li>110-111</li> </ul>	1.著名名	4 . 巻
2. 論文標題       5. 発行年         延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       2018年         3. 雑誌名       6.最初と最後の頁         2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集       110-111		_
延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       2018年         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集       110-111	净开心门,可小郭/位,从无张刊	HOHE
延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       2018年         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集       110-111		
延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度       2018年         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集       110-111	2.論文標題	5.発行年
3 . 雑誌名 2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト集 110-111		_
2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集 110-111	ᇋᄱᆄᅮᆓᅷᄖᅜᄸᅅᅩᆫᆇᇄᆄᄊᆈᅜ	2010—
2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集 110-111	- NA 6	6 PARI PW - T
	3.維誌名	6.最初と最後の負
	2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アプストラクト隼	110-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   香蒜の有無   青蒜の有無		
	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし 無		
***		<del>~~</del>
オープンアクセス 国際共著	オーノンアクセス	国際共者
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -		

. #46	1 a 344
1.著者名	4 . 巻
Hiroyuki Usui	20
2.論文標題	5.発行年
Statistical distribution of building lot frontage: Application for Tokyo downtown districts	2018年
Statistical distribution of buriaring for frontage. Approacion for longo domitomin districts	2010-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Geographical Systems	in press
γ το του <b>γ</b> το του <b>γ</b> το του του του του του του του του του	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.1007/s10109-018-0268-3	有
10.1007/310103-010-0200-3	F)
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 英型な	1 4 <del>*</del>
1.著者名	4.巻
薄井宏行,樋野公宏	83
2.論文標題	5.発行年
- ・ 臓の	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
日本建築学会計画系論文集	in press
	<u></u>   査読の有無
	有
トープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
	4 · 중 32
Hiroyuki Usui, Yasushi, Asami	) <u>/</u>
2 . 論文標題	5.発行年
Size distribution of urban blocks in the Tokyo Metropolitan Region: estimation by urban block	2018年
density and road width on the basis of normative plane tessellation	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
International Journal of Geographical Information Science	120-139
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	   査読の有無
10.1080/13658816.2017.1384550	有
	国際共著
tープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	- 4 . 巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   . 著者名   薄井宏行	- 4 . 巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 . 著者名 薄井宏行	- 4.巻 83
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和	- 4.巻 83 5.発行年 2018年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和 3 . 雑誌名	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和  3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 475-482
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和  3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 475-482 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和  3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集  場載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/ai ja.83.475	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 475-482
1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 街区パターンの多様さが街区面積の多様さに及ぼす影響 正方格子状パターンの仮定の緩和  3 . 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	- 4 . 巻 83 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 475-482

1.著者名	. 211
英共灾任 主主部件 没日美国	4 . 巻
薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司	none
	E 38/二ケ
2 . 論文標題	5 . 発行年
延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度	2018年
	• •
2 144-4-7	6 見切し目後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集	110-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
4.0	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
7 JJJJCACIGOV, AIGG JJJJCAN ELA	
1.著者名	4 . 巻
薄井宏行	26
海开公1】	۷.
2.論文標題	5.発行年
道路延長と街区総数	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
地理情報システム学会講演論文集	A-7-3
H # 살수 ^ PAL / 트로 스타 프로 스타 - 파티크 >	本芸の左仰
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
+	<b>国</b>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4 ***	A 244
1.著者名	4 . 巻
薄井宏行・樋野公宏・真鍋陸太郎	26
1471 - 11.0 (1.2.1 - 1	
9 44-X-1507	= 7V./= b=
2.論文標題	5 . 発行年
GIS操作法の教育の現状と課題 -東京大学工学部都市工学科の演習におけるArcGISとQGISの同時教育を通じ	2017年
τ-	
-	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
	A-3-1
地理情報システム学会議演論文集	
地理情報システム学会講演論文集	
地理情報システム学会講演論文集	
	査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
	査読の有無 無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	無 国際共著 - 4.巻
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	無 国際共著 - 4.巻 none
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行	無 国際共著 - 4.巻 none
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 薄井宏行 2.論文標題	無 国際共著 - 4.巻 none
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行	無 国際共著 - 4.巻 none
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 薄井宏行 2.論文標題	無 国際共著 - 4.巻 none 5.発行年 2017年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準	無 国際共著 - 4.巻 none 5.発行年 2017年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準	無 国際共著 - 4.巻 none 5.発行年 2017年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アプストラクト集	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アプストラクト集 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アプストラクト集 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 薄井宏行 2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準 3 . 雑誌名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	無 国際共著 - 4.巻 none 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 薄井宏行  2 . 論文標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準  3 . 雑誌名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アプストラクト集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 none 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 176-177

1.著者名 Usui Hiroyuki	
	4 . 巻
osai niioyaki	onlinefirst
	onimerrist
2.論文標題	5 . 発行年
	2020年
Optimisation of building and road network densities in terms of variation in plot sizes and	2020#
shapes	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	onlinefirst
	* +
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1177/2399808320924671	有
,==================================	13
L -0	C Obs. LL ++
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
コープラフトと外ではない。人はコープファフとハガ田森	
1.著者名	4 . 巻
	onlinefirst
Usui Hiroyuki、Perez Joan	OHIHEHIST
2.論文標題	5.発行年
Are patterns of vacant lots random? Evidence from empirical spatiotemporal analysis in Chiba	2020年
prefecture, east of Tokyo	
	て 目がに目後の苦
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	onlinefirst
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1177/2399808320956656	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 菜耂夕	<b>4 类</b>
1. 著者名	4 . 巻
Usui Hiroyuki	onlinefirst
•	
0 +0-1	
2.論文標題	5 . 発行年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on	5 . 発行年 2020年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights	2020年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights	
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights 3.雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights	2020年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights 3.雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	2020年 6 . 最初と最後の頁 onlinefirst
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2020年 6 . 最初と最後の頁 onlinefirst
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無 有
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無 有
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無 有
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst 査読の有無 有
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著 -
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著 -
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 34
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 34
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34  5.発行年 2020年
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3.雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2 . 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3 . 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2 . 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3 . 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2 . 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3 . 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
allometric scaling analysis and application to harmonise building heights 3 . 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2 . 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings 3 . 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1080/13658816.2020.1748191	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13658816.2020.1748191	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203
Building height distribution under zoning regulations: Theoretical derivation based on allometric scaling analysis and application to harmonise building heights  3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808320977867  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Usui Hiroyuki、Teraki Akihiro、Okunuki Kei-ichi、Satoh Toshiaki  2. 論文標題 A comparison of neighbourhood relations based on ordinary Delaunay diagrams and area Delaunay diagrams: an application to define the neighbourhood relations of buildings  3. 雑誌名 International Journal of Geographical Information Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13658816.2020.1748191	2020年 6.最初と最後の頁 onlinefirst  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 34 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 2177~2203

〔学会発表〕 計18件(うち招待講演 3件/うち国際学会 6件)
1.発表者名
Usui Hiroyuki
2. 発表標題
Building height distribution under zoning regulation: theoretical derivation based on Gibrat's Law and allometric scaling analysis
3.学会等名
The 21st European Colloquium on Theoretical and Quantitative Geography (ECTQG)(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 Usui Hiroyuki
2 . 発表標題 Optimization of building density and road network density: in terms of the variation of building lot sizes and shapes
optimization of buriding density and road network density. In terms of the variation of buriding for sizes and shapes
3. 学会等名
International Seminar on Urban Form 2019(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 山本和也・薄井宏行・浅見泰司
山本相也 海州本门 (及元家司
2.発表標題
路線バスにおける総所要時間最小化によるフリー乗降区間の配置 -横浜市青葉区東急バスみたけ台線への応用-
3 . 学会等名
日本都市計画学会 第54回学術研究論文発表会
4 . 発表年 2019年
2019-4-
1 . 発表者名 金洪稷・樋野公宏・薄井宏行・花里真道・高木大資・近藤尚己・近藤克則
亚/尔伐 " 他 封
2. 発表標題
高齢者の趣味活動・スポーツ参加と近隣施設密度の関係 -名古屋市におけるJAGESのパネルデータを用いて-

3 . 学会等名

4 . 発表年 2019年

日本都市計画学会 第54回学術研究論文発表会

現
2 . 発表標題
最近隣距離が短すぎず最大近隣距離が長すぎない点密度  3. 学会等名 2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4. 発表年 2020年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3. 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4. 発表年 2019年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表構題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年1
最近隣距離が短すぎず最大近隣距離が長すぎない点密度  3. 学会等名 2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4. 発表年 2020年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3. 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4. 発表年 2019年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表構題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年1
最近隣距離が短すぎず最大近隣距離が長すぎない点密度  3. 学会等名 2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4. 発表年 2020年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3. 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4. 発表年 2019年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表構題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年1
最近隣距離が短すぎず最大近隣距離が長すぎない点密度  3. 学会等名 2020年  4. 発表年 2020年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表権題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3. 学会等名 (SIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4. 発表年 (2019年  1. 発表者名 清井宏行  2. 発表権題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表者名 2019年1
3 . 学会等名 2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4 . 発表年 2020年  1 . 発表書名 潭井宏行  2 . 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAVS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 潭井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会林季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 2019年  1 . 発表者名 2019年
2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4 . 発表年 2020年  1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 飛表年 2019年  1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USU1, H.
2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会  4 . 発表年 2020年  1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 飛表年 2019年  1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USU1, H.
2020年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会     4. 発表年 2020年     1. 発表有名 薄井宏行     2. 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に     3. 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会     4. 発表年 2019年     1. 発表存在 薄井宏行     2. 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較     3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)     4. 発表存 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)     4. 発表存 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会科を研究発表会(招待講演)     1. 発表存 1
4. 発表年 2020年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3. 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4. 発表年 2019年  1. 発表者名 薄井宏行  2. 発表標題 最大近隣距離分布の場出と第6近隣距離分布との比較  3. 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4. 発表年 2019年
2020年      1 . 発表者名     沸井宏行      2 . 発表標題     都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に      3 . 学会等名     CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会      4 . 発表年     2019年      1 . 発表者名     満井宏行      2 . 発表標題     最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較      3 . 学会等名     2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)      4 . 発表年     2019年      1 . 発表者名     USU1, H.      2 . 発表標題
2020年      1 . 発表者名     沸井宏行      2 . 発表標題     都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に      3 . 学会等名     CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会      4 . 発表年     2019年      1 . 発表者名     満井宏行      2 . 発表標題     最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較      3 . 学会等名     2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)      4 . 発表年     2019年      1 . 発表者名     USU1, H.      2 . 発表標題
薄井宏行         2 . 発表標題         都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に         3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 薄井宏行         2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較         3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 Usui, H.         2 . 発表標題
薄井宏行         2 . 発表標題         都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に         3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 薄井宏行         2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較         3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 Usui, H.         2 . 発表標題
2 . 発表標題 都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に 3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 薄井宏行 2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較 3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 USUI, H.
都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 満井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USUI, H.
都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 満井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USUI, H.
都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 満井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USUI, H.
都市は本当にスポンジ化しているのか: 千葉県を対象に  3 . 学会等名 CSIS DAYS 2019 全国共同利用研究発表大会  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 満井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 USUI, H.
4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年
2019年         1 . 発表者名 薄井宏行         2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較         3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 Usui, H.         2 . 発表標題
2019年         1 . 発表者名 薄井宏行         2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較         3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)         4 . 発表年 2019年         1 . 発表者名 Usui, H.         2 . 発表標題
1 . 発表者名 薄井宏行  2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
<ul> <li>薄井宏行</li> <li>2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較</li> <li>3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)</li> <li>4 . 発表年 2019年</li> <li>1 . 発表者名 Usui, H.</li> <li>2 . 発表標題</li> </ul>
<ul> <li>薄井宏行</li> <li>2 . 発表標題 最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較</li> <li>3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)</li> <li>4 . 発表年 2019年</li> <li>1 . 発表者名 Usui, H.</li> <li>2 . 発表標題</li> </ul>
最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
最大近隣距離分布の導出と第6近隣距離分布との比較  3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
3 . 学会等名 2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 Usui, H.
2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
2019年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会(招待講演)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Usui, H.
4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 Usui, H.
2019年  1 . 発表者名 Usui, H.  2 . 発表標題
1 . 発表者名 Usui, H. 2 . 発表標題
Usui, H.  2.発表標題
Usui, H.  2.発表標題
2.発表標題
Are patterns of vacant building lots random? Empirical study in Chiba prefecture, the suburbs of Tokyo
,
a. W.A.Mark
3 . 学会等名
Urban Transitions 2018(国際学会)
4 . 発表年 2018年
AUIO <del>II.</del>
2010 1

1.発表者名
Usui, H.
3 7V ± 15 H5
2. 発表標題
Comparison of city boundaries based on population density aggregated in census-bureau-imposed units and natural cities of
grouping buildings
3.学会等名
International Conference on Spatial Analysis and Modeling 2018 (国際学会)
The chartonal contended on spatral Amaryons and modering 2010 (EMPZ)
4 . 発表年
2018年
1. 発表者名
Usui, H.
2.発表標題
Statistical distribution for building lot depth
3. 学会等名
The 2018 EPB Symposium on Urban Systems Design(招待講演)(国際学会)
4. 発表年
2018年
· Trace
1.発表者名
薄井宏行・樋野公宏
2.発表標題
- 1 元代保護 休憩施設の密度と最大継続歩行距離 -東京駅および大手町駅周辺地区を対象に-
小芯ルIXの出皮し取入(Mixixが)   正確・宋示③(のよび)人于E   ③(内皮+0)をできた。
3 . 学会等名
第27回地理情報システム学会研究発表大会
36-1
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
薄井 宏行,寺木 彰浩
2. 発表標題
建物棟数密度の減少による延焼確率の減少効果 正方形敷地の仮定に基づく延焼確率分布の導出及び密集市街地における延焼リスク評価へ
の応用
0 WAMP
3.学会等名
日本都市計画学会第53回学術研究論文発表会
4 . 発表年
2018年

1.発表者名
Hiroyuki Usui
2.発表標題
Statistical distribution for building lot depth
3 . 学会等名
the 2018 EPB Symposium: Urban Systems Design(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
薄井宏行・寺木彰浩・浅見泰司
2. 発表標題
延焼確率の確率密度関数と建物棟数密度
3 . 学会等名
2018年日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会
4.発表年
2018年
=====
1. 発表者名
薄井宏行
AN (ALI)
2 . 発表標題
道路延長と街区総数
EBECCBE
3 . 学会等名
地理情報システム学会第26回学術研究発表大会
心を情報とハノムテムが自手的動力がなハム
4 . 発表年
2017年
4VII T
1.発表者名
薄井宏行・樋野公宏・真鍋陸太郎
2.発表標題
GIS操作法の教育の現状と課題 -東京大学工学部都市工学科の演習におけるArcGISとQGISの同時教育を通じて-
3. 学会等名
カーチスサロ 地理情報システム学会第26回学術研究発表大会
<sup>20</sup> 年旧報ノハノムナムカ40日ナ河州九元秋八ム
4.発表年
2017年
5VII T

1.発表者名 薄井宏行		
2 . 発表標題 継続歩行距離と休憩施設の密度基準		
3 . 学会等名 2017年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会		
4 . 発表年 2017年		
1.発表者名 薄井宏行		
2.発表標題 建物壁面間の距離の最大値分布と最小値分布		
3.学会等名 地理情報システム学会第29回学術研究発表大会		
4. 発表年 2020年		
〔図書〕 計1件 1.著者名	4.発行年	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2020年	
2. 出版社 古今書院	5.総ページ数 248	
3.書名 あいまいな時空間情報の分析		
〔産業財産権〕		
〔その他〕		
6 . 研究組織       氏名       所属研究機関・部局・職         (ローマ字氏名)       (機関番号)	備考	
7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会		
〔国際研究集会〕 計0件		
8.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況		

相手方研究機関

共同研究相手国